

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	「小人の国」(学校図書・三年上)による空想と現実との境
Author(s)	関山, 邦宏
Citation	児童の言語生態研究 , 3 : 25 - 30
Issue Date	1969-11-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045040
Right	
Relation	



「子どもの発言」レポート(1)

「小人の国」(学図・三年上)による

空想と現実との境

関山 邦宏

。玉川学園小学部三年花組
児童数男十六名、女二十名
。昭和44年4月〇日

(実施対象と実施日)

〔附記〕

「小人の国」の授業における指導目標を私は次のように立てている。

「小人の国には小人の国の、ガリバーに代表される人間の国には人間の国の基準がある。この物語のおもしろさは、この基準がずれるところにある。」

以下、子どもの発言の記録は私の授業全体から言えばその予備調査の部分に当る。

「ガリバーが人間の国から旅に出て、船が嵐にあい沈没し、ガリバーが目をさましたら小人の国にいたね」

船

嵐

沈没

小人の国へ

・では、ガリバーは、人間の国から小人の国へどうやって入り込んだのだろう。

S 人がうかんで魚がみつくて海がよせてくる波にタッチしてついてその前に板……

K

ガリバーの船がしずんで、ガリバーは気を失い水の上にかんできました。1km位流されたところに天にまでつづいている山があり、その山にはでっかいほら穴があり、ガリバーは水にうかんでそ

のほら穴を入っていききました。そのほら穴は千km位つづいていました。ほら穴から出ると小さな無人島がありました。この無人島は頭位でした。そしてガリバーは泳いでゆくとその島は、この教室位で、ポツカリポツカリとうかんで、小人の国へついた。

Mi

ガリバーが沈んで流れていってね、小人の国はね前まで海の中にあっただけね、嵐で海の上に出てきて、そこにガリバーはたどりついた。

△他に? V

I ガリバーは波でクジラの背中に流されてね、島の

すぐそばをとっておとされたの、かぜで。

△まず、久保君の、

ガリバーは人間でしょ

じゃあ、人間が通るにはほら穴の大きさはどれくらい V

い V

Ku 一つのほら穴の入り口は、出口は、ガリバーが勢

いよく流されてね、ガリバーは石頭だからね、岩

をこわして小人の国へついたので。

△じゃあ、入口は人間の通れるだけの大きさでしょ。

ところが出るときは小さな出口だね。では、入口から出口へ至る間にガリバーはだんだんちいさくなっていくの? V

Fu

ちがう、トンネルが小さくなっていくの。

△トンネルがだんだん細くなっていくの? V

Ku

そう。

△じゃあ、ガリバーはどうやって通ることができる V

Sa

ア、ホントだ。

△もしトンネルが細くなってゆくとしたらガリバーも

だんだん小さくなっていかなくちゃ、いけないよ V

Sa

じゃあさガリバーはだんだん小さくなっていくん

でしょ。

Ch 石あたまだからわっちゃったんだって。

△石頭だから、細いところもだんだんわりながら進んでいくの。もぐらみたいに▽

Ch (笑い)

Ku だってさ、人間よりでっかいほら穴だもん。

△でもね、入口は人間が入れるだけの大きさでしょ。そして最後は小人の国の出口でしょ▽

Ch 横になって出たんだよ。

O 最初たっていたのがだんだん腹ばいになって出ていったの。

Ku 千km位でしょ。何もたべてないから、骨ぐらいになっっていくからおれるよ。

Ch でも、ねむってるからわかんないよ。

△太さはやせれば細くなるけど、じゃ、ガリバーの背は？▽

Ku ガリバーは石をこわしながら進んだから骨がこわれてこんなに小さくなってしまったの。

Fu 骨はこわれても皮は小さくならないよ。

△だつたらガリバーは人間でなくなるの▽

Ku それが小人の国へついたら、また骨が伸びるの。

Ch (笑い)

O 小人の国でもりもりたべたら又大きくなったの。そうじゃないよ。小人の国で小人をたべて、骨をたべるんだよ。

S

・次に、小人の国の土地は広い？ それとも狭い？

Ch せまい。

Ch こんなにちっちゃいの。

Ch ガリバー入れるかなー。

△それら、今、Oさんがいったように、ガリバーは小人

の島へ入れる？▽

Ch さつき、小人の国は教室位といったでしょー

Ch 前、人間がすんでいた島だから。

Ch 人間がいなくなつて、小人がすみついたんだよ。

Ch ワイワイ、ガヤガヤ。

(一度に何人もが発言をし騒然とす)

Ch 前人間がすんでいた島だよ。

△じゃ、前、人間がすんでいた島なら、ガリバーは小さくならなくてもいいじゃない？▽

Mi 人間がたぐさんいたんだけど、小人が進出してきてたんで人間がにげ出しちゃったんだよ。

Sa 人間がすんでいて、嵐で島が小さくなつちゃつてホラ、もういらなくなつちゃつてさー。

Ch ちがうの。

(騒然)

△はい、じゃあ、ちがう考え方をしようよ。ガリバーは小人の国で一番大きいお寺に入つても半分位しか入らなかつたし、海に入つても膝までしかなかつた

でしょ。小人の国で食事をしたでしょ。そして、ガリバーはかえろうとしたでしょ。かえりはどうやってかえつてきた？▽

O あれ、でも、ポートが流れついたんだからねエー。

(騒然)

Mi 入口が石でふさがつてしまつたんでね、また新しいポートがきたんだよ。

△じゃ、そのポートどこからきた。▽

Mi 海から。

△どここの海から？▽

Mi 人間の海から。

△じゃあ、洞穴をどうやって通つてきた？▽

Mi かわれてたつていったけどさ、最初はあたらしか

つただけどさ、ドカーンと岩にぶつかつてポロポロになつちゃったんだよ。

Ch だつてさ、そのポートなおせるくらいだつたんだよ。

Ch だから、それ、天からふつてきたんだよ。

Ch (騒然)

Ch どこからきたかわかんないじゃない。

△はい、ほら穴の出口から、小人の国まで五十m位と

いったでしょ。じゃあね、この五十mというのは、人間がはかつた五十mなの。それとも小人がはかつた五十mなの？▽

Ch (不安そうに) 小人。

△小人がはかつた五十m▽

Ch 人間じゃないかなあー。

△人間がはかつた五十m▽

Ch ウーン、小人の五十mだつたらちよつとしかないとでしょ。

Ch ウーン、あゝそうだ、じゃあー。

△先生の身長が一七〇cmというのは、人間の国で一mをこれだけにしますときめたのとくらべると、一七〇cmあります。ということでしょ▽

Ch ウーン、そうだよ。

Ch 小人の国だつたら、その一mの長さがちがうよね。

Ch 小人の国では、一mは三〇六cm位かね？

△そうね小人の国では、人間の国で一mとは長さがちがうでしょうね。▽

(騒然)

△じゃあ、長さが人間の国の長さとはちがうでしょ。▽

△小人の国の食事はどう？▽

Ch やつぱり、すくなくない。

Ch 小人の国で多くても人間には少ない。

・じゃあ、次に、小人の国で雨は降るかな？

Ch 雨がふったってき、人間では小雨。

Mi 小雨よりもっと小さいよ。

Fu ふっているかふっていないかわからないよ。

△人間では？▽

Ch うん、そうだよ。

△じゃあ、人間の国でこういう（この授業をやった間は雨がふっていた）強い雨がふったら、小人はどうなる▽

Ch 死んじゃうよ。

△どうして▽

Ch おぼれちゃう。

Ch あまりつよすぎる。

Ch あまり（雨滴が）大きすぎる。

Ch 雨の方がつよんじゃないの。

（騒然）

△小人の国でふる雨は人間では感じないくらいといったね。そしたら、ものがおちるとき、高いところからおちると、低いところからおちると、どっちがいたい。▽

Ch 高いところ。

△高いところからおちた方がいたいよね。だったら、小雨でも高いところからふってきたら、小人は死んじゃうね。鉄砲のたまと同じになっちゃうからね。そうすると小人の国の空も、低いそらでないといけないでしょ。▽

Ch ウン。

△食事も少なかったね。だったら小人の国の家は▽ちっちゃい。

Ma 大きいと広場になっちゃうよ。

△話の中にお寺が出てきたでしょ。じゃあ、小人の国にガリバーが半分も入れる大きな家があるの。▽

Ch ないねー。

Ch 大きい映画館みたいのじゃないの。

（騒然）

・じゃあ、風はどう。

Ch そよ風。

Ch ○・○○○○X m位。

（騒然）

Ch そよ風だったら、小人、台風じゃないの。

（騒然）

Ch そよ風が台風なみ。

△そうすると小人の国では、人間の国のそよ風よりもっとよわいんだね。だったら、ガリバーの息は？▽

Ch 台風ぐらい。

Ch 小人だったら、ふっとんじやうよ。

（騒然）

Ma それじゃあ、雲がうごいちゃうよ。

△ガリバーが息をすったら小人はどうなる▽

Ch すいこんじやう。

Ch みんなしんじやう。

Ma すったときに口の中に入って、ふいたときに出ちゃう。

（騒然）

△だったらね。…先生の話をきいてくれよ。（騒然）▽

Ch ハーイ、はやくいってよ。

△だったらね、ガリバーは小人の国でどうやってすんだの。▽

△ガリバーが寺に入っている所があるでしょ。小人が

ガリバーのすぐ前までできてるでしょ▽

Ch あ、ほんとだ。

△ガリバー、息をするでしょ。そうしたら小人をすいこんだり、はきだしたりしちゃうじゃないの▽

（笑い）

Fu この間は、人間の長さだとね、10m位あるの。

△じゃあ、小人の国の長さは▽

Ch わかんない。

Ma じゃあ、小人の国では10mしかないこともないよ。小人がたくさんいるもん。

（騒然）

Ch もう少し、大きいかもしれないよ。ガリバーが半分も入るんだから三百mぐらいあるよ。

（騒然）

△そんなに小人の国は大きいの▽

Ma 大きかったっていいじゃないの。

（騒然）

Ch そのくらいあったっていいじゃないの。

Sa 小人の国へガリバーがのつたら、小人の国はしずまないかなあー。こわれないかなあー。

（騒然）

Mi いくら島が小さくても、この教室位あったほうがいいとおもうんだけどなあー。

Ch 大きかったらしずまないよ。

（騒然）

Ni 島はういているんじゃないくて、下にくっついてい

るんじゃないの。

Ch だったらさ、海はだんだん深くなっていつちゃうよ。

Ch でもそれが無人島だったら……

Ch 大きかったっていいじゃないのその島が。

(騒然)

△一人ずついつてよー▽

Sa ういてたらね。大波がきたときに流されちゃう。

O だからガリバーのつてもこわれないか？

O でもさあー、無人島だったんだから、それははじめから人間の国なんでしょ。

Ch そうか、無人島だったら人間がすんでたはずだよ

Ch ね。

Ch だからガリバーは平気なんだよ。

Mi お寺に半分入るんだから、あと半分が国全部という

Ch ことないから、島からガリバーがはみ出ること

Ch はないと思う。

Ch あ、そうか、お寺に入れるんだものね。

△じゃあ、ガリバーは半分も入る大きな家を、小人の

△国では、どうやってたてる▽

Fu エー、わかんない。

Ch エー、十年かかって…:

Ch エー、前に人がすんでいたんだから…:

(騒然)

△じゃあ、前すんでいた人間はどうしたの▽

Ch 死んじゃったの。

(騒然)

Fu 本当は大きかったんだけどさー、半分こわれてど

っかへいつちやっただってさ。

(騒然)

△じゃあ、次に小人の国の音はどう。

Ch 大きい、ドーンと。

Ch 小さいよー。

Ch 人間にはきこえないよ。

(騒然)

Ch 小さすぎてきこえないヨーン。

△じゃあ、小人の耳は、そういう小さい音がきこえれ

ばいいでしょ▽

△もし、みんなが、すごく大きな音をきいたら、耳は

どうなる▽

Ch こまかくがやぶれちゃうよ。

Ch あ、そうだ、そうしたら、小人のこまかくがやぶれ

るはずだよ。

△人間の時計の音をきいたら、小人の耳はどうなの▽

Ch こまかくがやぶれちゃうよ。

Ch 耳をおさえていればいいじゃない。

O でもさあ、王様が軍艦がせめてきたのを助けてく

れといったのがガリバーはきこえたんでしょ。

(騒然)

△うん、ガリバーが助けたんだからきこえたんでしょ

うね。▽

Ch 時計の音、耳をおさえていればいいじゃないの。

(騒然)

Ch 小人のこまくと人間のこまくととはちがうんだよ。

△じゃあ、どういうふうちがうの▽

Ch 小人のこまくは石だよ。

△へえー、それできこえるの▽

(騒然)

Fu ちがうよ、こまかくがいくつも並んでいるんだよ。

だから一つやぶれても平気だよ。

(騒然)

△じゃあ、次に、人間の国のボートが小人の国に流れ

ついたでしょ。小人の国のボートは…:

Ch ちっちゃいよー。

△そのちいさい木で、人間の大きな舟が小人、なおせ

るの▽

Ch 何本も何本もあればいいじゃない。

Ch だって、無人島だったんだよ。

△じゃあ、無人島と小人の国は同じ？▽

Ch 同じじゃないよ。

Ch だけど昔、人間がすんでいたんだもん。

△じゃ、昔人間がすんでいた国だったら、小人は木の

下敷になって、死んじゃうよ▽

Ch 本当だよ。

Ch 穴なんか大きすぎてできないよ。

Ch 道具もないよ。

Ch じゃあ、人間の道具をつかえばいいじゃないの。

Ch だって人間の道具はつかえないもん。大きすぎて

ね。

Ch 釘はどうするんだろう。

△そうね、小人の国の釘で、人間の国の船をなおすの

に、どうやってうちつけるの？▽

Ch セメティンでつけるさ。

Ch じゃあさー、海に出たらはがれるかもしれないよ。

△人間の国のセメティンじゃ、小人がくっついちゃっ

て小人がうごけなくなっちゃうでしょ▽

Ch そうだよ。

Ch じゃあ、小人がつくればいいじゃないの。

(騒然)

Ch だって小人がつかうんだもん。

Ch 人間のセメティンを、小人が百人ぐらいで、エツ

サエツサとつかうよ。

△人間のセメティンだったら、ハエがハエとり紙につ

くように、小人がくっちゃうんじゃないかな▽

Ch じゃあさー、釘を何本もつなければいいじゃない

△どうやってつなげる△

(騒然)

Ch 強力だよ。

・ガリバーは小人の国から人間の国へどうやって帰ってきた？

Ch ポートにのって。

Ch あれ？ でも。

△じゃあ、そのポートはどうやって小人の国から人間の国へ出たの△

Ch あれ、途中で大きな船に助けられた。

△うん、大きな船に助けられるまで、小人の国からガリバーはどういう道順で帰ってきたの△

Fu うんまあ、どっちへいこうかなあと思ってたどっちでもいいやと思ってるぐるとまわっていた。

・じゃあ、小人の国の海と人間の国の海とはつづいているの。

Ch 別だよ。

Ch わかんないよ。

Ch 小人の国のなんて水たまりぐらいだよ。

Ma つながっているさ、だつてさ、地球にあるんだもん、海はみんなつながっているよ。

△つながっていると思う人は？

△つながっていないと思う人は？

△みんなつながっているの。△

△じゃあ、人間の国の海とつながっていたら、小人の国は海でしずんじゃうじゃないかな△

Me 波が防止してあるんじゃないの。

Fu 途中から海が細くなってるんだよ。

Yo 人間の海とつづいているんなら、人間の国の波が

きたらさ、しずんじゃうよ。

Mi 本当は小人の国はもつと大きいんだけど波がすぐそこまできているから、小人の国はちっちゃくなってるんだよ。

△はい、もう一度前にやったことをまとめてみるよ。

Ch あれ、ちょっとまって……

△はい、もう一度前にやったことをまとめてみるよ。

△小人の国の風は人間には感じないくらいだったし、雨でもそうだったでしょ△

Ch ハーイ。

△もし、人間の国の海が小人にあつたら△

Ch 小人死んじゃうよ。

Ch あたらないようにしてあるんじゃないの。鉄板か何かで。

Ni 小人の国なんて、鉄板ないかもしれないじゃないか。

Ni 小人の国の鉄板は、やっぱり小さくてよわいよ。

Ni 小人にあわせてつくつてあるもん。

(騒然)

Sa 小人の海

山

人間の海

(このように人間の国の海は山でさえぎられているから、大丈夫だと説明する。)

Ch だつたら切れているんじゃない。

Yo だつたら流れていけないんじゃない。

Ni どこかにトンネルみたいのがあって、そこでつながってればいいじゃないの。

Ch それでも、波がきたら、ジヤポーンとしてるよ。

(騒然)

Ch 船で帰った。

△船はどうやって小人の国へ入った△

Ch 山の上にひっかかったんだよ。

Ch ねむっているうちに船がついた。

Ch ねむっているうちに小人の国へ入れた。

(騒然)

Sa 小人の国は普通の人間の目ではみられなくて、目のいい人には小人の国はみられる。

Ch じゃあ、ガリバーは……

(騒然)

Sa みんなは目がわるいからみられないの。

Ma ガリバーは目がわるかったの。

(騒然)

・こうして順番に考えてみると、この話は変なことばかりだね。

Ni 本当だね。

Sa 本当だね。

Ch 何か変な話だよ。

・じゃあ、この話はどうんな話？

I ガリバーの夢物語。

Sa ガリバーの夢。

Ma じゃあ、どうして一番最後にこれ(ガリバーが小人の国から羊や牛をもらってきたところの絵が教科書にはある)がのってるの。

Ku これが夢の終りの絵なんだよ。

O この話は精神病院にいた人がかいたお話。

(笑い)

O ガリバーが岸に流れたときはねてたから、それで夢をみた話。

Mi ああ、わかった。きつとベットでねるときにネミ

た夢。

Ch そうだそれもある。

(騷然)

E この話がウソじゃなかったら本当の話だし……：おかしいやあー。

(騷然)

Mi でもさあ、本当に小人がいるかどうかわかんないや。

Ma ガリバーが海水浴にいらして、浜辺のところにねていたらね、波がきたら、夢でしずんだなあ、と思ってるね、それで波がひいた時に、あ、島についたなと思ってるね、それでまた波がきてね、かえってね、それであとね、そこでグツスリねるときに、あとでひつじみたいなのをみたような気になったの。

△じゃあ、小人は、軍隊は、舟が流れてきたのは？▽

Ma 全部ゆめ、みんなゆめ。

Sa 帰り、本物の舟がきてのってさ。

△小人の国から舟に助けられるまで、どうやってきたの。▽

Sa ゆめできたの。

△じゃあ、ガリバーが小人の国にいったのは本当▽

Sa ウソのこと。

Ya 変な話。

Ma おかしいもん。

Ya ばかばかしい話。

Ma だっさおわりがないんだもん。

△おわりがないって、どういうこと▽

Ma みせてから(舟で牛や羊をみせる) どうしたか、かいてないもん。

Sa でも、このままじゃ、おわりがないとおかしいよ。

E うその話。

△そう、うその話。

じゃあね、ウソの話をつくって、そのウソの話をよんでおもしろいと思うのはどうして？▽

Ma 変だから。

Ch 自分のすきなことがかけるから。

(騷然)

Ch どうやっていったか考えられるから。

Ni 考えられないことがいっぱいあるから、この話はおもしろい。

Ma だいたい空想だよー。

(参考資料・授業終了時の児童作文)

『物いうありと、人間』

M・M

はらっぱに家を作られています。ありも、家を作っています。二月月たったら、人間の家も、ありの家もできました。一匹のありが「人間の家は、いいな。地上だし、きれいな。いいないな。」といていました。それを聞いた、男のだいくさんは、大きいきれいな、家を作ってくれました。ところが、大きさが人間の家と同じなので、部屋から部屋へ行くのに、一時間もかかって、かいだんのぼるには、二時間かかります。それでは、こまります。やっぱり自分の家がいいんだなと、穴に入りました。つぎの朝、くいしんぼうの、よくばりのありがこんな歌を歌いました。「ピフテキピフテキ食べたいな。人間の国のピフテキを、大きいおいしいピフテキを」と歌いました。それを聞いた、コックさんは、すぐありの前に出しました。ありは、よくばりなので、自分一人で食べたので、さっきのありの、三十ばいぐらいになって、穴に入らなくな

いています。一年たって、やっと、しょうかされて、小さくなり、穴に入りました。そのありは、それくらいくいしんぼうでなくなりました。つぎの朝、いぼりんぼうのありが、王さまになっていぼってやろうと思いました。でもかんむりがありません。ありは、こんな歌を歌いました。「王さまになるには、かんむりがあるよ。かんむりをかぶるには、どうすればいいか」と歌いました。そこへとおりがかった人間の王さまはそれを聞いて、王さまは、ありにかんむりをかぶりました。ありは、もうすぐで、つぶれそうになりました。それからは、えばらないで、かんむりを見ると、こわくなりました。つぎの朝、あそんでばっかりいたありが、うまにのりたいたいなといていて、動物園のしいくがかりの人が聞いて、馬にありをのせて、走りました。でもありは、かるいので、とばされてしまいました。

この四匹のありは、いつもそのゆめばかり見ているので、四匹ともノイローゼにかかってしまいました。

(以下略)

